

【海外出張】

第5回スリランカ研修（現地ワークショップ） （刑事司法実務改善～公判前整理手続の運用指針策定～）

国際協力部教官
國井弘樹

1 はじめに

当部では、2019年（令和元年）度から、JICA（独立行政法人国際協力機構）国別研修のスキームで、スリランカ民主社会主義共和国（以下「スリランカ」という。）の刑事司法実務改善等を目的として、合計4回にわたり、同国の法曹三者等を対象に研修を行ってきた¹。同国では、かねてより刑事訴訟手続の遅延及びそれに起因する未済事件の増加が深刻な問題となっていたため、第1回研修では、迅速かつ確かな刑事手続実現に向けた日本の取組を広く紹介したところ、先方から、日本の公判前整理手続に強い関心が寄せられたことから、第2回研修以降、同手続の新規導入に向け、集中的に議論を交わすなどしてきた。

そうした経緯を経て、スリランカでは、2022年（令和4年）2月に刑事訴訟法が改正され、新たに pre-trial conference（以下「PTC」という。）が導入されるに至った。PTCは、第1回公判期日前に当事者等によって実施される準備手続であり、これを刑事訴訟手続の遅延解消の一助とすべく、現地法曹実務家からも高い期待が寄せられている²。

そこで、第5回研修では、PTC導入から半年を経過して直面している実務上の問題点等への対応や今後のPTC運用指針（Standard Operating Protocol/以下「SOP」という。）案等について、現地法曹三者を一堂に集め直接対面で議論等することを目的として、現地にてワークショップを開催することとした。

また、本ワークショップでは、スリランカ法曹三者それぞれが独自のSOP案を作成することを目的としており、日本側出張者もスリランカ側各機関への知見提供を可能とすべく、検察官（当職）、裁判官（当部曾我教官）及び弁護士（JICA枝川国際協力専門員）の三名で構成したほか、第3回及び第4回研修で講義を担当した米国国際開発庁（USAID）司法プロジェクトチーフの元米国検察官エメリー・アドラディオ氏も加わり、米国実務の観点からの助言等を提供いただいた。

なお、本報告中、意見にわたる部分は執筆者の私見である。

¹ 過去4回の研修についてはICD NEWS第83、87、89、91号参照。ICDホームページ（https://www.moj.go.jp/housouken/housou_houkoku_Sri_Lanka_00001.html）にも掲載。第1回は本邦で研修を実施できたものの、その後は新型コロナウイルス蔓延の影響により、オンラインでの開催を余儀なくされ、今次ワークショップはスリランカに対するJICA国別研修開始後初めて現地にて対面形式で実施する研修となった。

² PTC導入に係る改正刑事訴訟法の概要や同改正法の試訳については、本号掲載の茅根航一教官執筆記事（32頁以下）参照。

2 日程等

ワークショップ：8月26日（金）～28日（日） 於ネコンボ
表敬、法廷傍聴等：同月29日（月）～31日（水） 於コロombo

3 ワークショップ概要

詳細スケジュールにつき別添1、スリランカ側参加者（合計34名／内訳は裁判官9名、検察官13名、弁護士10名、司法省2名）について別添2参照。

スリランカでは、法曹三者の対立構造が顕著で、日本において都道府県単位で開催されている法曹三者による定期会合のようなものもないため、日頃より互いに意思疎通を図る機会がほとんど存在せず、PTC導入後、その効果的運用等について一度も議論したことがないとのことであった。そこで、本ワークショップは、副次的効果として参加者同士の交流促進を図ることも目的として、夏期休暇による休廷期間の週末3日間を使い、首都コロomboから車で1時間弱の観光地ネコンボのホテルを会場として各参加者も同ホテルに宿泊してもらう、いわゆる「合宿」形式で開催することとした。

なお、裁判所からの参加者がいずれも高位裁判所（High Court）³ 裁判官となっているが、これはPTCが高位裁判所に係属する事件のみを対象としているためであり、本ワークショップは、実際にPTCに携わる実務家の参加を得て実施したものである。

以下、各プログラム概要について紹介する。

(1) 各機関からのPTC概要等についての発表

初日の冒頭では、参加4機関より、PTCの概要や訴訟遅延が生じている理由等について、それぞれ発表が行われた。

中でも、裁判官及び検察官がいずれも弁護人に対し、PTCにおいて同意（admission）制度⁴を積極的に活用することを強く求めており、言外に、弁護人の応訴態度を訴訟遅延の原因の一つとしてみていることが窺われた⁵。

これに対し、休憩時間等に私的に話を聞いた著名な弁護士は、「制度上は事前の全面的証拠開示が保障されている⁶が、実際には機能しておらず、十分な証拠開示がない段階でadmissionすることは不可能。しかも、有罪率は5%未満で、ほとんどの事件が無罪になる中、検察側証人の尋問前からadmissionするメリットがなく、場合によっては弁護過誤にもなりかねない。實際上、PTCでadmissionを積極的に行っていくのは困難であり、むしろ、裁判官や検察官と協議し、司法取引を行う方が現実的。」と述べていたのが印象的であった。

³ 従前は「高等裁判所」と訳されることもあったが、スリランカ High Court は、刑法犯や法定刑が短期2年以上の自由刑とされている罪等の第一審裁判所であり（刑事訴訟法第11条）、いわゆる控訴審を担当する裁判所ではないため、誤解を避ける趣旨で「高位裁判所」の訳語を用いている。

⁴ 一方当事者が特定の事実関係についての同意（admission）した場合、それで証明十分であり、他方当事者による立証は不要とされる（刑事訴訟法第420条）。

⁵ 過去の研修においては、検察官が、訴訟遅延の理由として、弁護人による不必要な証人尋問、冗長な反対尋問、度重なる不合理な期日延期等を挙げ、両者間の不信は相当に根深いと感じさせる場面があった。

⁶ PTCでは、裁判官は、検察官から弁護人に全面的開示が実行されているか確認し、必要に応じて（開示等の）命令を発出することができる（改正刑事訴訟法第195条のA(3)項）。

また、裁判官が、自らの負担軽減の観点から、P T Cの実施主体として、記録裁判官（recorder judge）⁷の活用を強く希望していることも印象的であった。裁判官は、多い者で1,000件以上の手持ち事件を抱えながら、本来的には書記官が行うべき期日管理といった司法行政事務まで自ら行っているとのことであった。

各機関からの発表を受け、スリランカにおける訴訟遅延の原因を検討するためには、当事者の応訴態度だけでなく、捜査実務を含めた、一連の手続における実務慣行を丁寧に確認していくことが必要不可欠であると痛感した。

(2) 模擬公判整理手続・模擬P T C

日本側からは、架空の殺人未遂事案を題材に、出張者3名がそれぞれ当事者役を演じて模擬公判前整理手続を行った。これは第3回研修時にも披露したものだが、今回は改めて法曹三者の協力に基づく争点及び証拠整理の重要性を強調したものとしたところ、先方は、導入間もないスリランカP T Cと比較しつつ、我々のプレゼンテーションに強い関心を示していただいた。

その後の質疑応答では、例えば①（起訴状一本主義を前提に）裁判官は公判前整理手続において証拠の要否をどのように判断しているのか、②検察官による被疑者・被害者等の取調べの可否、立会人の要否、③証拠開示の運用、④（検察庁における）部制庁・主任立会の違い、⑤公判前整理手続における被告人の黙秘権保障、⑥公判前整理手続における裁判官のリーダーシップなど、予定時間を超過するほど、数多くの質問が活発に寄せられた。とりわけ、予定主張の明示を前提とした争点整理と被告人の黙秘権保障との関係については、これまでの研修の中でも白熱した議論となり、結果として改正法には争点整理に関する定めが設けられなかったように、先方が高い問題意識を持っていることがうかがえた。

また、先方からのリクエストによりプログラムに加えられた模擬P T Cでは、実際の現地の事件記録をもとに作成した事例を題材にして、スリランカの法曹実務家が組織の垣根を越えて当事者役を演じ、時には大きな笑いを交えながら参加者の交流促進にも繋げることができた。

⁷ 改正刑事訴訟法では、高位裁判所裁判官とともに記録裁判官（recorder judge）もP T Cの主宰者たり得る旨規定されているが（同法第195条のA(4)項）、本ワークショップ参加者によれば、同時点では、その資格要件すら定められておらず、全く運用されていないとのこと。



写真左：日本側プレゼンの様子。参加者から多数の質問が寄せられた。

写真右：スリランカ側模擬P T Cの様子。裁判官と弁護人が同一当事者役を演じるなど、交流促進に繋がった。

(3) S O P案の作成

その後、裁判官、検察官、弁護人（司法省も参加）が各チームに分かれ、本ワークショップの主目的であるS O P案を作成した。裁判官チームは、事前にチェックリスト（事件がP T Cに付されてから終結するまでの間に裁判官が実施しなければならない事項を改正刑事訴訟法の規定に従って一枚紙にまとめたもの）を作成しており、また検察官チームは参加者全員が積極的に議論し合いながら、極めて詳細なS O P案を作成するなど、各グループの熱意が感じられた。

S O P素案が完成した段階で、各グループからその内容を発表してもらい、我々日本側専門家及びU S A I D専門家から若干のコメントを付し、曾我教官からは、裁判官チームに対し、争点整理の重要性及び書記官による期日管理など、書記官の有効活用の重要性等を、小職からは、検察官チームに対し、警察等他の関係機関との協力及び情報共有の重要性等を、J I C A枝川国際協力専門員からは、弁護人チームに対し、被疑者・被告人に対してP T Cの内容を分かりやすく説明することの意義等を指摘した。

各機関は、そうしたコメントも踏まえてS O P最終案を完成させた上、最終日には、法務長官局（Attorney General's Dept.）から法務長官、最高裁判所からは同判事、スリランカ弁護士会からは同会長、法務省からは事務次官補（法務担当）の参加を得て、各機関からその内容を発表いただいた。S O Pは各機関の内部文書であるため、その内容を公開することはできないが、いずれも即時運用可能で極めて実務的な内容となっており、参加いただいた各ハイレベルからも総じて高い評価を得た。

今後は、本ワークショップで完成したS O P最終案について細部を詰めて完成させ、各機関において正式なS O Pとして承認を得ることになっている。



写真左：弁護士チームの議論風景。
写真右上：検察官チームの議論風景。
写真右下：裁判官チームの議論風景。

4 おわりに

スリランカ国別研修は、新型コロナウイルスの影響等により、これまでに本邦研修を一度、オンラインでの研修を三度実施するにとどまっていたところ、今次、先方からの強い要請を受け、協力開始後初めて、現地で多数の法曹実務家の参加を得てワークショップを開催することができた。

ワークショップでは、法曹三者がそれぞれ積極的かつ主体的に議論に加わって、すぐにでも実務で運用可能なSOP案の完成に至り、短期間のワークショップではあったが目に見える成果を出すことができた。また、ワークショップを通じ、スリランカ刑事司法手続の改善に向けた現地実務家の情熱とともに潜在的能力の高さを感じることもできた。

このように、本ワークショップはPTCの有効活用に向けたSOP案作成を目的としたものであったが、我々としては、スリランカの法曹実務家に我が国による法制度整備支援の実際を対面で体験いただき、今後の協力関係についての議論・検討の基礎を構築したいとの思惑も有していた。その点、ワークショップのプログラム外の交流等を通じ、例えば複数の参加者から「自分の経験上、スリランカの法曹三者が同じテーブルで

議論したのは初めての経験で、自国内でこのような機会を得られるとは思ってもみなかった。日本の招待だからこそ実現したもので、今後もこうした交流によって相互理解を深めていきたい。」旨の温かい言葉をいただいたり、また私的な会食等で所属を超えて自由闊達な議論を交わしたりすることもでき、オンラインではおよそ困難であった実質的な意思疎通を実現することによって、先方法曹三者内部の交流を僅かでも促進させることができたとすれば、それこそ最大の成果といえよう。

しかしながら、2013年から1年半にわたって行われた調査によれば、警察による逮捕から第一審判決宣告までの平均期間が10年2か月にも及んでおり、有罪率も5%前後にとどまるなど、スリランカ刑事司法実務の問題は相当に根深く、一朝一夕にバックログを解消できるとは到底思えない。しかも、最終日のセッションに参加いただいたヤサンサ・コダゴダ最高裁判所判事によれば、折からの経済情勢も相俟って、スリランカの年間予算中、司法セクターに割り当てられているのは僅か1%に過ぎないとのことで、財政上の制約も存在する。そのような中、日本の協力は非常に重要であると自覚し、引き続き、バックログ解消のため、スリランカ刑事司法実務改善に協力していきたい。

最後に、本ワークショップは、スリランカ前大統領の国外脱出、全土を対象とした非常事態宣言発出などを受け、我が国の外務省からも注意喚起が出される中で実施したものであったが、事前準備から我々の現地滞在中に至るまできめ細かく対応いただいたJICAスリランカ事務所の井出次長、ナマル職員に改めて厚く御礼申し上げます。

【添付資料】

別添1 ワークショップ・タイムテーブル

別添2 ワークショップ・参加者名簿

Timetable for PTC Workshop (FINAL)

	12:00 - 12:30	12:30 - 14:45	14:45 - 15:00	15:00 - 16:00	16:00 - 17:00	17:00 - 17:15
Day1	Coach leaves SC complex at 12:30.	12:30 - 13:45 Travelling to Jetwing Beach 13:45 - 14:45 Lunch (Check-in will be done by Hotel staff during Lunch)	Introduction (JICA/ICD) *Opening Remarks by ICD and JICA Sri Lanka Office	Presentations from Objectives and Expected Outcomes of PTC from the Perspective of MoJ, Prosecution, Defense, Judiciary (4 x 10 min presentations, 20 min Q&A)	Objectives & Outcomes of implementing PTC in Japan, Mock PTC (10 min presentation, 40 min mock PTC, 10 min Q&A)	Preparation for next day: Breakout to 2 groups, hand over case material for mock PTC
Day2	9:00 - 9:30 PTC in US - Objectives & Practices (20 min presentation, 10 min Q&A)	9:30 - 10:00 PTC as a Means of Speedy and Fair Trial: Sri Lankan Perspective (20 min presentation, 10 min Q&A)	10:00 - 10:30 Mock PTC (20 mins PTC, 10 mins discussion) Case 1	10:30 - 10:45 Tea Break	10:45 - 11:15 Mock PTC (20 mins PTC, 10 mins discussion) Case 2	11:15-12:15 Break out to Teams: Presentation by Panelists to their corresponding teams, on specific steps inherent to their team's role to start the discussion on what needs to be included in their SOP. (40 min presentation, 20 min discussion)
	9:00 - 9:30 Mr. Emery Adoradio (Expert Resource Person from USA, in collaboration with USAID)	9:30 - 10:00 Senior Additional Solicitor General Mr. Priyantha Nawana, P.C.,	10:00 - 10:30 Demo PTC by Participants Review/ Feedback by Resource Persons/ Panelists	10:30 - 10:45 Tea Break	10:45 - 11:15 Demo PTC by Participants Review/ Feedback by Resource Persons/ Panelists	11:15-12:15 Presentation by each Panelist to their corresponding team (Prosecution, Defense, Judiciary).
	9:00 - 9:30 Observations on the draft SOPs from an international perspective, and discussion (30 mins observations, 30 mins discussion)	9:30 - 10:00 Observations by International Experts (Mr. Emery Adoradio & ICD)	10:00 - 10:30 Break out to Teams Incorporate observations, and improve/ finalize the SOPs	10:30 - 10:45 Tea Break	10:45 - 11:15 Incorporate observations, and improve/ finalize the SOPs	11:15-12:15 Finalize the presentations for final session
Day3	9:00 - 10:00	10:00 - 10:30	10:30 - 10:45	10:45 - 11:15	11:15-12:15	12:15 - 13:15 Lunch Break
	9:00 - 9:30	9:30 - 10:00	10:00 - 10:30	10:30 - 10:45	10:45 - 11:15	11:15-12:15
	12:15 - 13:15 Lunch Break	13:15 - 14:45 Teams draft the SOPs	14:45 - 15:00 Tea Break	15:00 - 16:00 Teams draft the SOPs, and prepare 10 min presentation	16:00 - 17:00 Sharing Team Outputs: Presentation of first draft - Prosecution, Defense, Judiciary (10 min x 3 presentations, 30 min clarifications)	17:00 - 17:15
	13:15 - 14:45 Participants, supported by Panelists/ Resource Persons	14:45 - 15:00	15:00 - 16:00 Participants, supported by Panelists/ Resource Persons	16:00 - 17:00 Presentation by Participants/ Panelists Clarifications towards understanding the outputs by all	17:00 - 17:15	17:00 Coach departs Hotel
	14:45 - 15:00 Prepare for formal session	15:00 - 16:00 Opening remarks by Hon. AG. Mr. Sanjay Rajaratnam, P.C., Presentations of SOPs (3 x 10 mins Presentations from Prosecution, Defense, Judiciary); Key Note Speech by Justice Yasantha Kodagoda, P.C., Workshop Recap by Professor Kunii. Remarks by President, BASL, Mr. Saliya Pleris, P.C., Closing Remarks by Chief Representative, JICA, Felicitations & Refreshments	16:00 - 17:00	17:00 - 17:15		

Participants at JICA Workshop, 26-28 August 2022, Jetwing Beach/Blue

No.	Name	Designation
High Court Judges		
1.	Mr. T. L. Abdul Manaf	High Court Judge
2.	Mr. Malwattage Kamal Anton Peiris	High Court Judge
3.	Mr. Jagath A.Kahandagamage	High Court Judge
4.	Mr. R. A. Don Giyan Chandra Ranawake	High Court Judge
5.	Mr. W. P. S. Sujeewa Nishshanka	High Court Judge
6.	Mr. L. R. Bandara	High Court Judge
7.	Mr. T. J. Tennakoon	High Court Judge
8.	Mr. D. S. Soosaithas	High Court Judge
9.	Mr. Adithya Patabendige	High Court Judge
Attorney General's Department (Prosecutors)		
10.	Ms. Damithini de Silva	State Counsel
11.	Ms. Vigneswaran_Mathini	State Counsel
12.	Mr. Hansa Abeyrathne	State Counsel
13.	Mr. Shakthi Jagodaarachchi	State Counsel
14.	Mr. Kalana Shyam Arindra Jayasinghe	State Counsel
15.	Ms. Haleema Faiz	State Counsel
16.	Ms. Chathuri Udayanga Wijesuriya	State Counsel
17.	Mr. Kasun Sarathchandra	State Counsel
18.	Mr. Nuski Mohammed	State Counsel
CIABOC		
19.	Ms. L. K. T. D. Dayaratne	Asst. Director - Legal
20.	Ms. Anuradha Siriwardane	Asst. Director -General
21.	Mr. Shaminda Wickrema	State Counsel
22.	Mr. Priyantha Nawana, P.C.	SASG

Bar Association of Sri Lanka (Defense Counsel)		
23.	Ms. Chandima Sugathadasa	AAL
24.	Mr. Amal A. Randeniya	AAL
25.	Mr. Upali Mohotti	AAL
26.	Mr. Newman Henry Weligaarachchi	AAL
27.	Mr. Senerath Jayasundara	AAL
28.	Mr. Mohan Sellapperuma	AAL
29.	Mr. J. Tenny Chathuranga Fernando	AAL
30.	Mr. Pathinathar Anton Punethanayagam	AAL
31.	Mr. Chamara Salinda Wannisekara	AAL
32.	Mr. Anuja Premaratne, P.C.	AAL
Ministry of Justice		
33.	Ms. Ruwanadini Kuruppu	
34.	Ms. I. A. Kotelawala	
JICA/USAID		
35.	Mr. Emery Adoradio	USAID/Chemonics
36.	Hiroki Kunii	ICD
37.	Manabu Soga	ICD
38.	Mitsushi Edagawa	JICA
39.	Yuri Ide	JICA
40.	Namal Ralapanawe	JICA